

題名：「市民公開講座」のご報告

第40回造血細胞移植学会（2月1日～3日）にあわせて開催されました、市民公開講座（2月3日）が盛況のうちに終了しました。

当初の予想を大きく上回る約340名の皆様にご参加いただきました。足下の悪い中お越し頂いた全ての方々に御礼を申し上げます。

「血液がん治療をのりこえる」をテーマに行われた今回の市民公開講座の概要をご報告します。

まず始めに、重松明男医師（北楡病院血液内科 医長）からご講演いただきました。実際に移植治療を受けた立場、かつ医師の視点から、治療を受けるうえで医療者にきちんと症状を伝える事の大事さについて語られました。

続いて、実際に移植治療を受けた患者様（長野洋一様、大谷はるみ様）からのお話を戴きました（長野様はインフルエンザのため、主治医である市立旭川病院血液内科診療部長である柿木康孝先生が原稿を代読されました）。会場の反応から、ご参加いただいた方々の心に響く内容であったと感じています。

その後、治療を通じての味覚・食事・栄養の観点から、北海道大学病院高齢者歯科の松下貴恵先生、北海道大学病院管理栄養士の池田陽子様からご講演いただきました。治療経過を通じて食べる事、口腔ケアの重要性について、さらには具体的にどういった食事摂取が良いかについてお話をいただきました。また、InBody（インボディ）という機械で水分量、筋肉量などの測定が可能であり、治療経過を通じての栄養状態の評価に有用であることが紹介されました。最後に、東京大学乳腺内分泌外科（がん相談支援センター副センター長）の分田貴子先生からカバーメイクについてご講演いただきました。治療経過を通じて生じた「染み」や「皮膚の色の变化」に対して驚くほど目立たなくさせるカバーメイクが存在することを紹介いただきました。会場にはカバーメイク法について教えてくれるボランティアの方々もお越し頂き、とても盛況な会にすることができました。

会場の外では、様々な栄養補助食品サンプルを用意させていただきました。実

際にその場で試飲できるコーナーも準備しました。また、今回の市民公開講座のために特別に InBody の機械を取り寄せ、会場にお越し頂いた皆様に実際に体験してもらうこともできました。

一方で、当初予想していた 2 倍以上の参加者がお越しになられたため、サンプル提供が全参加者に行き届かなかったことを、この場を借りてお詫び申し上げます。

最後に、企画運営を共に尽力いただいた岡田耕平先生はじめ血液内科の皆様、山田千津子看護師長、造血細胞移植コーディネーターの神澤雅美様、お手伝い戴いた研修医・北大医学生の皆さん、企業の皆様、全国骨髄バンク推進連絡協議会の皆様、グループ・ネクサス・ジャパン北海道の佐野英昭様、コングレの皆様、ご発表いただいた諸先生、そして、この市民公開講座の企画をする機会を与えてくださいました北海道大学血液内科の豊嶋崇徳教授に御礼を申し上げます。

文責：北海道大学血液内科 後藤秀樹



患者 重松明男

17才 男性  
1991年 悪性リンパ腫発症



両がん発症後に兄から骨髄移植施行

2000年- 北海道で血液内科医師





# 小ホール

第40回  
日本造血細胞移植学会総会  
The 40th Annual Meeting of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation  
**市民公開講座**  
【第12会場】  
[小ホール]  
📷 📱 🚫

携帯電話・PHS等の電源は  
お切りください  
館内は禁煙です  
ホール内での飲食は  
ご遠慮ください



和室  
和室の注意事項  
和室の注意事項  
和室の注意事項



